

<保護者アンケートの結果に関する考察>

○全体的な評価は、毎年、概ね高い。

○情報発信については少しポイントが上がっている。記述欄には「お手紙等メール配信でもいいのではないか」という意見もあった。これからも様々な媒体を通して学校の取組を保護者や地域の方に伝えていきたい。

○保健・安全危機管理の項目は、肯定的評価が全て100%であった。今後も、児童の命を守り健やかな成長を保障する教育活動を地域や保護者と協力して進めていきたい。

○校外学習についてももっと取り入れてほしいという意見や地域の方と関わる機会があつてありがたいという意見があり保護者の方は地域学習に対する関心が高いことが窺える。コロナ禍であるが少しずつ可能な限り校外行事も取り入れていきたい。

△家庭学習の習慣が付いないと感じている保護者が28%となっている。本年度は鳴門教育大学や徳島県教育委員会と連携して学校力や学力を向上する取り組みとともに家庭学習についてもアドバイスをいただいた。また、自主勉強ノートについても見本を示すなど様々な方法を取り入れながら進めてきたが、引き続き家庭学習の習慣が身につくよう指導を模索していきたい。

△いじめや生徒指導の問題について、心配する児童が悩みを抱えていることが考えられる。数値としては低くても、危機感を持って児童への指導に当たる必要があると考えている。

△学校行事やPTA活動について少し改善すべきであるという意見もある。「運動会は半日でよかった」など従来のよさを活かしつつ改善できる行事等は工夫して良い方向にもっていききたい。

△「学校は、学校全体の雰囲気明るく、活気があると感じる。」「学校の教育活動について全体的に満足である。」「あなたのお子様は、楽しく学校に登校している。」についてC評価がみられる。全員が楽しく登校でき、明るく活気がある学校めざして教育活動を進めていかなければならない。

△「元気よく挨拶ができる」は昨年度より評価が低くなっている。挨拶はコミュニケーションの基本であり、一日を気分良くスタートするためにも大切である。また、本校の児童は、交通事情がよくないので、交通事情を知って児童を優先してくださる方への感謝の気持ちを大きな声で挨拶することで伝えているという伝統が続いている。しかし、この結果からは十分にあいさつができていないことが窺える。様々な機会を捉えて指導を続けていきたい。